

熊本市における中学生の職場体験「ナイス・トライ」事業の現状と課題

辻野智二・東 誠*

The Present State and Problem on Nice-Try Activities which are Workshop Experience by Junior High School Students in Kumamoto City

Tomoji TSUJINO, Makoto HIGASHI *

(Received October 1, 2007)

Nice-Try activities which are workshop experience by junior high school students in Kumamoto city has been performed since 2000. In this paper, the present state and problem of Nice-Try activities are studied with reference to reports written by junior high schools. Educational effect and significance of Nice-Try activities are verified and evaluated from viewpoint on living force, norm consciousness, relation with information society, career education, and relation to community and home. Furthermore comparison between the activities about workshop experience and all parts of the country is carried out. As a result, it is made clear that Nice-Try activities are excellent educational activities, and which are supported by curator and community. It is important that Nice-Try activities are positioned appropriately in curriculum of school education in relation with contents of other subjects and activities.

Key words : Nice-Try activities, workshop experience, career education, relation to community and home, school education

1. 緒 言

熊本市における中学生の職場体験「ナイス・トライ」事業は、「学校では体験できにくい『生きる力』や『豊かな心』の基礎となる体験活動の機会や場を、地域の協力を得て提供すること」をねらいとして、平成11年度に試行され、平成12年度から、市内全中学校2年生を対象に実施されている。本事業の試行開始後7年を経過した現在、様々な課題や要望が各学校に寄せられていることもあり、この事業に関する総合的な検証・評価が必要と思われる。また、都市化、少子化、核家族化及び情報化等の進展と共に、規範意識の低下、社会性の不足、フリーター志向やニートの増加など、本事業開始時期と比べて、学校を取り巻く社会情勢や教育環境が大きく変化していることから、本事業の位置付けを見直すと共に、その教育的意義・役割を明確化しておくことが求められている。

そこで、本報告では、始めに「ナイス・トライ」事

業の新たな位置付けについて言及する。すなわち、本事業内容に関する課題とその教育的有用性・役割について、「生きる力の育成」、「規範意識の育成」、「情報社会との関連性」、「キャリア教育」及び「地域・家庭との連携」の各観点から検討・考察する。次いで、「ナイス・トライ」事業の活動の現状について、熊本県立中学校において作成された事業報告書の分析・考察を行うと共に、今後の課題について論及する。さらに、全国の中学校で実施されている職場体験活動の現状との比較検討を行う。

2. 「ナイス・トライ」事業の新たな位置付け

「ナイス・トライ」事業は、熊本市青少年問題協議会による青少年の健全育成に関する答申⁽¹⁾に基づき、平成11年度から熊本市教育委員会のイニシアティブの下、熊本市内の中学生の職場体験活動として行われてきている。本事業開始時期と比べて、学校を取り巻

* 元教育学部学生

く教育環境・社会環境は大きく変遷してきているところから、本事業の新たな位置付けについて総合的な検討を加え、その教育的意義を明確化し、学校現場等に周知していくことが必要と考えられる。本報告では、学校現場における喫緊の教育課題となっている「子どもたちの生きる力や規範意識の育成」、「情報社会での在り方」、「キャリア教育の必要性」等の観点から、職場体験活動としての「ナイス・トライ」事業の必要性・重要性について、以下に論及する。

2. 1 生きる力の育成

学校教育は、子どもたちの「生きる力」の育成を目的としており、「確かな学力」、「豊かな人間性」及び「健康と体力」の教育的保証が課題とされる。「確かな学力」を育むためには多様な分野・内容の教育活動が必要とされるが、その原点は、子どもたちの興味関心や学習意欲を引き出すことにあると言える。また、「知識や技能」、「判断力」、「課題発見・解決能力」等をより実践的に育成し、向上させるためにも、社会体験や自然体験等の実践的な活動体験は極めて重要な教育活動となる。

地域の職場等で様々な体験活動を行う「ナイス・トライ」事業は、「各教科等から学んだ『知識』に基づく総合的・応用的な理解力や思考力を育み、実践的な判断力や豊かな心の育成」につながるものであり、子どもたちの「生きる力」の育成に密接に連関するものと言える。従って、今後「ナイス・トライ」事業を充実・発展させるためには、本事業を学校教育の教育課程の中に適切に位置づけることが必要であり、また、各教科や諸教育活動との関連性と相互補完性を具体化・明確化し、校内での共通理解を図っていくことが重要となる。

2. 2 規範意識の育成

平成16年度版犯罪白書によると、少年刑法犯検挙人員は20万3,684人であり、少年による問題行動、逸脱行動及び犯罪は、平成13年度以降増加の傾向にある⁽²⁾。少年非行についても、刑法犯少年の検挙人員が高水準で推移しており、少年による社会を震撼させる事件が相次ぐ等、深刻な状況にある。

このような問題行動や逸脱行動等の課題を改善するためには、学校の役割や在り方も含めて、より広い視点から多角的に検討する必要がある。また、これらの問題行動や逸脱行動に連関する規範意識や道徳心の低下の背景として、個人の自由や権利のみが過度に強調されてきた社会的風潮と共に、子どもたちが人や社会との関係の中で自分自身を磨く機会が減少していることが関係している。生活体験・自然体験が豊富な子ど

もほど、道徳観・正義感が充実している傾向が見られることであり、体験活動を通して、ものごとの価値の判断能力や選択能力を育成することが必要である。

「ナイス・トライ」事業は、上記諸課題の改善・解決に向けた学校教育としての役割を果たすものであり、社会人・職業人との触れ合いによるコミュニケーション力や社会的なマナーやモラルの実践的育成を通じて、子どもたちの規範意識や倫理観、命の大切さや他人を思いやる心等を育成する教育活動であると言える。

2. 3 情報社会との関連性

現代の情報社会では、IT機器を活用した情報交換や情報交流が促進される一方、コンピュータシミュレーション等による「疑似体験」や「間接体験」が一層増える傾向にある⁽³⁾。このような「疑似・間接体験」や「画像空間」の広がりと増加は、結果として社会体験や自然体験等の「直接体験」の減少を招いている。また、情報メディアへの過度のめり込みは、「ひきこもり」等にも見られる人間関係の希薄化、ネット依存症への危険性、対人関係能力の劣化、死や生に対する現実感覚の希薄さ等につながる。その結果、子どもたちの成長に対する負の影響が懸念され、多様な体験活動の充実が強く求められているところである。

社会体験活動は、社会や人との「関わり」や「関係」について体験を通して学ぶという点で、バーチャルな体験では得られない社会性や連帶的・組織的な活動力を育む重要な役割を果たすことになる。従って、情報社会における「ナイス・トライ」事業は、地域社会で営まれている実際の生活活動への参加を通して、社会的・組織的な活動力を育むと共に、コミュニケーション力、豊かな心や他人を思いやる心の育成、社会規範の在り方等を学ぶ効果的かつ有用な体験教育活動となっている。

2. 4 キャリア教育

ニートやフリーター志向の増加、就職後の早期離職の問題、勤労観、職業観の未熟さなど、職業人としての基本的な資質・能力の低下が各方面から指摘されている⁽⁴⁾。具体的には、「勤労観、職業観や社会人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題」、「人間関係の未熟さ、自己肯定感の喪失等につながる子ども達の生活・意識の変容」、「モラトリアム傾向による進路意識や目的意識の希薄さ」等があげられる⁽⁵⁾。従って、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる」キャリア教育を推進することは極めて重要な今日的課題である。

文部科学省では、平成16年の「若者の自立・挑戦

のためのアクションプラン」⁽⁶⁾に基づき、平成17年度から、職場体験等を推進するためのシステムづくりや中学生の職場体験の実施等、地域の教育力を最大限活用したキャリア教育の推進を図っている。また、これらの動向を受けた中教審の報告では、中学校における5日間以上の職場体験「キャリア・スタート・ウィーク」を実施すべきと述べている。

熊本市で取り組んでいる「ナイス・トライ」事業は、このようなキャリア教育施策に先んじて行っている先駆的活動として評価されているが、本事業の更なる発展が求められるところである。

本事業における体験活動は、次章で述べる現状分析からも明らかなように「勤労観や職業観に対する基本的な見方・考え方」、「仕事をやり遂げることによる充実感や満足感、達成感」を得る極めて有用な機会になっているものと考えられる。また、生徒が教師や保護者以外の大人と接する貴重な機会となり、「異世代とのコミュニケーション能力の向上が期待されること」、生徒が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、「主体的な職業選択の能力や高い職業意識の育成が促進されること」、「学校における学習内容と職業との関係について理解すること」等を、「ナイス・トライ」事業のねらいとして明確化し、キャリア教育の観点から推進することが重要である。

2. 5 地域・家庭との連携

核家族化や少子化、都市化等を背景とした家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されている。家庭においては、子どものしつけに対する自覚不足等、家庭教育力の低下が指摘されると共に、食生活における栄養摂取の偏りや睡眠時間の減少等、基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えている。地域においては、連帯感の希薄化や地域の教育力の低下が指摘されると共に、子どもの安全を脅かす凶悪な事件の発生など、憂慮すべき社会問題が多発している現状にある。また、学校現場が抱える「いじめ、不登校、校内暴力、学級崩壊等」は、大人社会の価値観や家庭生活の在り方とも密接に関係する課題とも言える。

このような背景の下で、平成14年の中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」⁽⁷⁾や平成15年の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」⁽⁸⁾においては、新しい「公共」に主体的に参画する意識や態度を涵養していくことの重要性や、その上での奉仕活動・体験活動の意義、推進方策等について言及している。また、平成14年度から、文部科学省では、子ども達が行う様々な奉仕活動・体験活動の機会を大幅に拡大するための具体的な施策と

して、「地域と学校が連携協力した奉仕活動・体験活動推進事業」を実施し、さまざまな取組を展開しているところである。

これからの地域・学校・家庭においては、このような子どもたちを取り巻く多様・広域的な諸課題への対応のためには、地域・学校・家庭が一体となった教育環境づくりを進め、子どもを「育て・守る」適切な連携支援体制の構築に向けた活動が重要となっている。

学校・家庭・地域社会の連携を基盤として進めていく「ナイス・トライ」事業は、地域社会を有用性の高い新たな教育の場として捉え直すものであり、多様な地域の教育力を活用した協同的かつ組織的な教育活動として位置付けることができる。今後の本事業の発展に向けて、地域の関係機関・組織との有機的な連携・協力を推進することが必要であり、また効率的・効果的なシステム作りや緊密な情報交換等の取組が求められる。

3. 「ナイス・トライ」事業の現状

現在、熊本市内の全中学校37校が、職場体験活動として、「ナイス・トライ」事業を実施している。各学校の事業報告書に基づき本事業の現状と課題について考察する。

3. 1 「ナイス・トライ」事業の職種

図1には、熊本市立中学校12校（生徒数1754名を対象）が取り組んでいる「ナイス・トライ」事業の職種の割合を示す。図に示されているように、事業の職種としては、「店舗」の割合が25.3%と最も多く、次いで「保育」が18.9%、「公共機関」17.0%、「サービス・企業」14.9%の順となっており、これらの4つの職種で、全体の約3/4を占める。次に、「医療・福祉」8.9%、「飲食業」8.3%、「農業」4.1%の順で、本事業が行われている。店舗は、各学校の校区内にも比較的多くあることから、生徒にとっても身近な存在であると共に、協力も得やすいものと思われる。保育所及び幼稚園については、市内に約700施設あり、生徒にとって比較的身近な場と受けとめられていると思われ、表1の事業所あたりの受け入れ平均人数も5.0と他の職種と比べて多いことが特徴である。

「ナイス・トライ」事業へ参加・協力する事業所に対しては、各学校の教員スタッフが中心となって依頼・開拓等を行ってきているようである。一方、生徒自ら希望する事業所を選定し、生徒が直接事業所に依頼する活動を積極的に取り入れるなど、本事業に対する新たな試行にチャレンジしている学校も見受けられる。

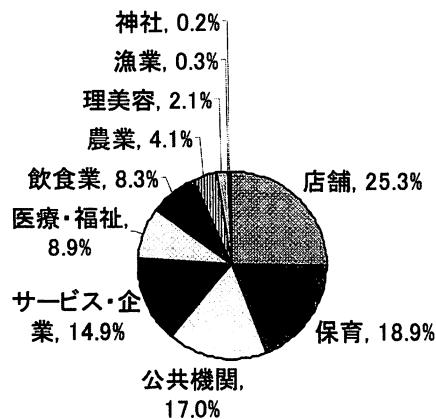


図1 熊本市内の中学校における事業の職種

表1 職種別の事業所数と事業所あたりの受け入れ平均人数

	事業所あたりの受け入れ平均人数
店舗	3.2
保育	5.0
公共機関	4.2
サービス・企業	3.0
医療・福祉	3.0
飲食業	3.0

3.2 「ナイス・トライ」実施後の生徒の感想

各学校の報告書に記載されている生徒の感想の一部を、紹介し、コメントする。

(1) 「生きる力」の観点

生徒から寄せられた多くの感想から、本事業を体験して「挨拶・礼儀等のマナーの大切さ」、「コミュニケーションの大切さ」、「目標に向かって一生懸命努力することの大切さ」を学んでいることが分かる。「人の立場に立って考えられるようになった」、「気配りができるようになった」、「他人を思いやる心」、「周りの人への感謝の気持ちが生まれた」等を実感し、「豊かな心」の育成につながっていることも窺える。また、「積極的に何にでも取り組めるようになった」、「何でも積極的に行行動しようと思った」、「人と話したり、接することが前より苦手ではなくなった」、「この体験を通して、自分に自信が持てるようになった」、「挨拶や返事をうまくことができなかった」、「自分から動けなかつたという反省点を改善し、これから自分に生かしていくみたい」などの感想も述べられており、「ナイス・トライ」事業は、生徒にとって「社会性、表現力、判断力、積極性、主体性、協調性等」を育む学習の場として受けとめられており、「生きる力」の育成につながる実践的な教育の機会となっている。

(2) 「地域・家庭との連携」の観点

「地域の人との触れ合い」、「たくさんの人との交流」を通して、「職場で働く人たちの姿を見て、とても良い刺激になった」、「学校で体験できないことがたくさんあって勉強になった」等の感想が述べられている。また、「この体験で、両親への感謝の気持ちが芽生えた」、「これまで、親に反抗していたけど、今度からは感謝の気持ちを忘れずにしたい」等、「働いている親への感謝」と共に、「異世代の人との出会いや交流の楽しさ」や「地元の自然の良さの再発見」も述べられるなど、新たな体験教育の場となっている。「ナイス・トライ」事業は、学校の教育活動の中に地域の教育力や家庭教育を取り込む効果的な機会になっているものと考えられた。

(3) 「キャリア教育」の観点

「働いてお金を稼ぐことの大変さが分かった」、「やり遂げた達成感が味わえ、社会の楽しさや厳しさを学ぶことができた」、「仕事することの大切さや責任感を学んだ」、「将来、自分は何をしたいか分かった」、「働くということについて、今まで以上に考えることができ、他の仕事も体験したい」、「将来、お世話をなった事業所で働くために勉強したい」等が述べられている。「ナイス・トライ」事業は、生徒の職業観や勤労観の育成の場となり、将来の職業のことについて考えるきっかけになっていると思われる。

3.3 事業所からのアンケート結果

事業所からのアンケート結果の一部を紹介し、本事業の現状と課題について論究する。

多くの生徒に対しては、「挨拶が良くなり、素直で、非常に礼儀正しかった」、「時間をきちんと守り、意欲的だった」、「一生懸命作業し、仕事に対する熱意を感じられた」、「好奇心にあふれ、自主的・主体的に行行動していた」及び「人に対する思いやりや気遣いができる」とも述べられている。挨拶やマナーに加えて、生徒の意欲や積極性・主体性等が評価されており、気遣いや思いやりのある生徒として受けとめられている。

一方、「恥ずかしさや緊張感から、おとなしすぎで、自ら行動する力が足りない」、「仕事に対する本気さが感じられず、根気がなかった」、「目標意識や課題意識を持っているのだろうか、嫌々来ている感じが伝わってきた」及び「友達が集まると私語が多い」とも指摘されている。主体的・意欲的に行行動している生徒がいる反面、やる気の無さ、緊張感不足、根気の無さ等が見受けられる生徒も若干いるようである。学校での事前指導における動機付け等も今後の課題となろう。

また、「ナイス・トライ」事業と学校に対して、「学校での事前学習が良くできていたようだった」、「今の

中学生がどんな考えを持って生活しているのか勉強になる」、「仕事の厳しさや楽しさを実感でき、また、将来について考える良い機会になると思う」、「社会や他者から信頼され、必要とされていることを実感でき、協調性や社会性が身につく良い事業だと思う」、「生徒達の地域理解につながると思う」のコメントが寄せられており、「ナイス・トライ」事業についての評価はかなり高いものと思われ、事業所にとっても、生徒達と触れ合い、生徒を理解する機会となっているようである。

「ナイス・トライ」事業と学校に対する意見として、「期間が短く、生徒達も慣れずに終わってしまったので、もう少し長く活動してみてはどうか」なども指摘されている。実施時期に関連して、「月初めと月末は避けていただきたい」や「受け入れ期間が他校と重なることが多いので、調整してほしい」との要望があがっている。特に、後者の課題「時期が重なること」については、市教委等のコーディネータによる調整が期待されている。

その他、事業所の割り振り方に関連して、「事業所の希望順位の高い生徒を割り振ってほしい」との要望や、「こちらから学校を訪問して、仕事に対しての気持ち等の話をする機会があると良いと思う」という意見が述べられている。「事前の準備日等があれば、もっとやりやすいと思う」、「最終日に30分くらい時間をとって、職場等についての質疑応答の時間をとったらどうか」という事業所における指導についての意見も寄せられている。また、「専門性の高い仕事が多いため、見学する場合が多く、ナイス・トライに適した職場かどうか心配」、「経験としては意義はあると思うが、年齢的に専門性の面では、少し難しいかもしれない」等の受け入れの事業所として適否について、自問している例も見受けられる。

「ナイス・トライ」事業の今後の展開に関連して、「とても良い活動だと思うので、全学年で実施し、複数の場所へ行って、いろいろな仕事を体験できると良いと思う」及び「2年生だけでなく、各学年でいろいろなところを体験する数を増やした方が良いと思う」等の職場体験活動の充実を期待する意見があった。他方、「仕事をするということについて、事前指導をしっかりしてほしい」、「目標が曖昧のような気がする。何のためにナイス・トライをするのか、真剣に考える時間が必要だと思う」、「ナイス・トライ開始後ではなく、事前に先生が来ていただけすると、生徒の状況を十分に理解し、もっと内容を吟味して計画できると思う」、「学校でも、先生に対しての言葉遣いを今後教育してほしい」、「事後の振り返りが事業所側にも伝わってくると良いと思う」、「申し合わせ事項に自然災害時

の対応が入っておらず、台風で中止の際に戸惑った」等、学校による生徒への事前・事後指導内容の充実や事業所との連携体制の在り方に関する意見もあがっている。

今後、このような課題の改善に向けては、市教委・学校・地域関係組織等との連携・協力システムの構築が期待されており、関係者らによる密接な情報交換と共通理解が「ナイス・トライ」事業の充実・発展につながるものと思われる。

3. 4 保護者からのアンケート結果

保護者からのアンケート結果の一部を紹介し、「ナイス・トライ」事業の現状と課題について論究する。

(1) 「生きる力」の観点

生徒達の活動の成果として、「他者との会話の仕方や挨拶、言葉遣いを含めた対応の仕方等の大切さを理解し、マナーについて学習した」、「事業所の方にほめてもらったことが自信につながり、その後の生活する力につながっている」、「人の気持ちや感謝の気持ちを理解し、考えられるようになった」、「日常とは違う、責任感と緊張感のある生活を味わった」及び「体験を通して、命の大切さも理解してくれればと思う」等が述べられていた。コミュニケーションの仕方、挨拶やマナーについて学習すると共に、学校生活とは異なる体験を通して、自信の獲得・命の大切さや思いやりなど、心の育成につながっているものと受けとめられている。また、「小さい子どもに対する見方・接し方が変わり、人との関わりへの関心が深まった」、「見ること・聞くこと・すること全てが新鮮で、社会の一端を肌で感じることができた」とのコメントからは、人や社会との関わり方への興味・関心の増加につながっていると捉えられている。

(2) 「地域・家庭との連携」の観点

「地域の中で、いろいろなことを学び、コミュニケーションを図る良い機会になっている」や「毎日の仕事ぶりを子どもから聞けて、家庭内での会話がいつも以上にあった」と述べられており、地域との触れ合いや家庭内の雰囲気の向上にもつながっていると考えられる。

(3) 「キャリア教育」の観点

「社会的組織の一員として働くことにより、社会のあり様を観察・体験した」、「仕事の厳しさや大切さを感じ、働くことの意味を少しだけでも理解できた」、「社会でどれだけ通用するかがわかる良い機会となり、自分の可能性や物事に対する視野が広まった」、「自分の進路を選択する上で、この経験は貴重なものとなり、活動した業種に興味が湧いた」、「親に対しての感謝の意を持ち、自立心が芽生えた」等の成果が述べられて

いる。保護者からは、職業観・勤労観の育成や多元的な物の見方・考え方の醸成、自立心の育成、進路について考える有効な場であると評価されている。

(4) 「ナイス・トライ」事業に対する意見・要望

実施日数について、「夏休みを利用して、期間を1週間から10日くらいにしてはどうか」、「4日間は長い気もした。2,3日で良いのでは」、「時期も日数もちょうどいいのでは」というように、様々な意見に分かれている。また、実施時期についての意見・要望としては、「梅雨の時期は避け、もう少し涼しい時期にしてほしい」、「時期が期末テストの直前で、また部活の活動が盛んな時期だったので、できれば秋ぐらいがいいのでは」等が述べられている。

活動時間についての意見・要望では、「4日間もあるので通勤時間を短くしても良いのではないか」、「事業所により終了の時間差がありすぎるようだ」という意見が述べられている。

その他、「一つの職場だけでなく、他の職種も体験できるようにすると視野が広がっていいのでは」、「多くの体験をさせるために、1年生から毎年実施できればと思う」等、「ナイス・トライ」事業をより発展させる方向の意見が数多く出されている。

また、学校に対する「ナイス・トライ」事業の運営上の課題として、「子ども達が事業所を選択するにあたって、それぞれの事業所の体験内容がわかれれば決めるやすいのではないか」、「事業所の配属について、どのような基準で決めたのかはっきりしてほしい」、「子ども達が行きたい事業所を自ら開拓するのも良いではないか」、「事業所に出かけるのに、ほんの僅かな距離の違いで自転車と徒歩とに分かれていることが疑問に思った」、「どの事業所も、服装は、制服または体操服に統一した方が望ましいのではないか」等のコメントがあがっている。

ボランティアとして参加している保護者からの意見として、「連絡なしで欠席者があり、学校にでも連絡してあれば良かったのにと思う」及び「生徒達が、時間ぎりぎりに来ていたので、事前の指導が必要に思う」等の意見も述べられている。また、第一希望の事業所にならなかった生徒への配慮、服装や通勤方法の統一、学校・家庭・事業所の連絡体制の強化、さらに、生徒の事前指導の徹底等が期待されており、これらの課題については、今後、検討する必要があるようと思われる。

4. 全国の中学校における職場体験活動の現状

国立教育政策研究所生徒指導研究センターによって平成17年度に公表された「職場体験・インターンシップ現状把握調査」^⑨によると、平成15年度の全国の中学校においての職場体験活動の実施状況は、8879校中7366校が実施しており、実施率は83.0%にのぼる。また、その学年別の実施率は、1年生18.2%，2年生83.8%，3年生20.0%となっており、2年生の実施率が最も高い。なお、「ナイス・トライ」事業も2年生を対象としている。

図2には、「ナイス・トライ」事業と全国の中学校の実施時期について示す。全国の中学校では、11月が19.8%と最も多く、次いで10月が16.6%で、8月11.3%，6月と7月は11%であった。この中で注目すべき点としては、実施時期が分散していることと8月の実施率が10%超もあることで、夏休みの長期休暇を利用した職場体験活動もかなり行われていることがわかる。一方、「ナイス・トライ」事業においては、9月が56.0%と最も多く、次いで6月と2月が12.0%，11月8.0%の順となっている。「ナイス・トライ」事業の実施時期は9月にかなり集中しており、長期休暇を利用した職場体験活動は見られない。

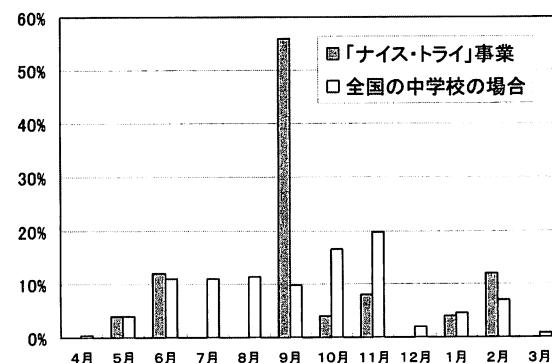


図2 「ナイス・トライ」事業の実施時期と全国の中学校の場合との比較

実施日数については、図3に示すように、全国の中学校の場合、1日37.9%，2日28.0%，3日20.2%，5日9.5%の順になっており、8日以上も0.9%ある。一方、「ナイス・トライ」事業の場合は、4日46.4%，3日42.9%，5日7.1%の順となっており、期間としては長くて5日間となっている。

また、全国における職場体験活動の教育課程の位置付けの割合については、総合的な学習の時間への割り当てが80.6%，次いで特別活動11.9%，教育課程に位置付けない5.9%の順となっている。

なお、全国の中学校における職場体験活動のねらい

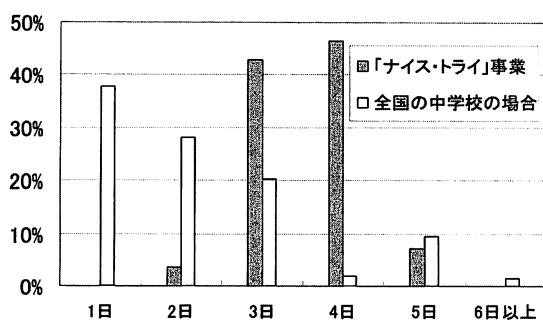


図3 「ナイス・トライ」事業の実施日数と全国の中学校の場合との比較

としては、「職業観・勤労観」の育成が95.0%，次いで進路学習全般への意欲の向上64.2%，社会性やモラル等の育成56.7%，将来設計能力の育成34.6%，人間関係形成能力の育成27.0%の順となっている。

5. 結 言

本研究では、熊本市教育委員会が推進している「ナイス・トライ」事業の新たな位置付けについて明らかにするために、「生きる力の育成」，「規範意識の育成」，「情報社会との関連性」，「キャリア教育」及び「地域・家庭との連携」の観点から検討・考察した。また、「ナイス・トライ」事業の現状や今後の課題について、各学校の報告書に基づき分析・論究した。さらに、全国の中学校における職場体験活動の現状について分析し、熊本市の「ナイス・トライ」事業との比較検討を行った。

得たる結果を要約すると、次のとくなる。

(1) 「ナイス・トライ」事業の推進に当たっては、本事業を学校教育の教育課程の中に適切に位置づけ、学校における各教科内容や諸教育活動と職業との関連性や相互補完性を具体化・明確化すると共に、得たる情報の共有化が重要である。

(2) 「ナイス・トライ」事業は、「体験活動を通した充実感や満足感、達成感を得ること」，「各教科等から学んだ「知識」を総合化した応用的な思考力と実践的な判断力の育成」，「コミュニケーションや表現力等の社会性の育成」等の教育的有用性がある。

(3) 「ナイス・トライ」事業は、自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、「主体的な職業選択の能力や職業意識の育成」が促進されること等、「キャリア教育の推進」につながっている。

(4) 「ナイス・トライ」事業は、「挨拶や礼儀等のマナーの大切さ」，「コミュニケーション、積極性、自主性、協調性の大切さ」，「仕事の厳しさ、責任感」等の

様々な経験を積む場となっており、社会人・職業人との触れ合いによるコミュニケーション力やマナーやモラルの実践的育成、規範意識や倫理観、命の大切さや他人を思いやる心等を育成する教育活動として有効である。

(5) 事業所にとって、「ナイス・トライ」事業は、学校や子どもたちを理解する活動となっており、本事業への高い評価と、今後の継続性について期待している。「ナイス・トライ」事業の今後の課題として、実施日数、実施時期の調整、事業所の割り振り法、事前・事後指導の充実について指摘されており、今後、改善へ向けて事業所と学校の一層の連携が求められる。特に実施時期については、56%の中学校が9月に集中し、学校間の日程の重複が課題となっている。

(6) 保護者からは、生徒達の活動の成果として、コミュニケーションの仕方、挨拶やマナーについて学習すると共に、学校生活とは異なる体験を通して、自信の獲得・命の大切さや思いやりの心の育成につながっていること、人や社会との関わり方への興味・関心の増加につながっていること等について言及されている。また、「ナイス・トライ」事業は、地域との触れ合いや家庭内の雰囲気の向上にもつながっていると考えられ、職業観・勤労観の育成や多元的な物の見方・考え方の醸成、自立心の育成、進路について考える有効な場として評価されている。

(7) 「ナイス・トライ」事業に対する保護者からの意見・要望としては、実施日数や実施時期、活動時間等について様々な意見が述べられ、検討の余地が残されているものと考えられた。また、学校に対する「ナイス・トライ」事業の課題として、事業所の選定方法や事業所配属についての改善要望も出されている。

(8) 「ナイス・トライ」事業の職種としては、「店舗」の割合が25.3%と最も多く、次に「保育」が18.9%，「公共機関」17.0%，「サービス・企業」14.9%，「医療・福祉」8.9%の順となっている。また、「ナイス・トライ」事業は、各学校を取り巻く地域の特色を生かし、多くの事業所等との連携協力の下に実施されており、その地域の教育力に支持された多様な体験活動となっている。

(9) 「ナイス・トライ」事業は、地域社会における多様な教育機能を活用した組織的教育活動として位置付けていくことが必要である。そのためには、関係機関・組織等との有機的な連携・協力を推進するための、効率的・効果的なシステム作りや緊密な情報交換等の取組が求められる。

(10) 平成15年度の全国の中学校においての職場体験活動の実施率は、83.0%にのぼり、学年別の実施率は、2年生が83.8%と最も高い。全国における実施時

期は、ほぼ分散している他、夏休みを利用した職場体験活動も行われている。教育課程の位置付けとしては、80.6%が総合的な学習の時間として行われている。

謝 辞

本研究の遂行に際しまして、関係資料のご提供を始め、貴重なご助言、ご鞭撻を賜りました熊本市教育委員会に心より感謝申し上げます。なお、本研究は、熊本大学教育学部と熊本市教育委員会との連携協力活動の一貫として行われたものである。

本研究が、今後の「ナイス・トライ」事業の充実・発展に寄与できれば幸いである。

- 2) 法務省：平成16年度版 犯罪白書，2004.
- 3) インターネット白書2005：財団法人インターネット協会，2005.
- 4) 内閣府：平成17年度版青少年白書，2005.
- 5) 文部科学省：「キャリア教育の推進に向けて—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために—」，2005.
- 6) 文部科学省：「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」，2004..
- 7) 文部科学省：中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」，2002.
- 8) 文部科学省：中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」，2003.
- 9) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター：「職場体験・インターンシップ現状把握調査」調査概要，2005.

参考文献

- 1) 熊本市青少年問題協議会：21世紀を展望した青少年健全育成施策の在り方について，1999.